

## 会 議 録

会議の名称		第2回守谷市総合計画審議会		
開催日時		令和3年4月28日(水) 開会：13時55分      閉会：15時50分		
開催場所		守谷市役所議会棟 大会議室		
事務局(担当課)		市長公室 企画課		
出席者	委員	腰塚会長、齊藤委員、新田(友)委員、石澤委員、新田(み)委員、鳴澤委員、鈴木委員、貝塚委員、須賀委員、飯塚委員、松元委員、佐藤委員、伊藤委員、河合委員 <span style="float: right;">(14名出席)</span>		
	その他			
	市職員	松丸市長、浜田市長公室長、浅野次長兼企画課長、坂本課長補佐、南崎係長、北川主任、坂主任		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1. 開 会 2. 新委員紹介 3. 会長あいさつ 4. 市長あいさつ 5. 協議事項 (1) 第三次守谷市総合計画基本構想(案)について 6. その他 (1) 今後のスケジュール等について 7. 閉 会		
確定年月日		会議録署名		
令和3年6月29日		会 長    腰 塚   武 志		

## 審 議 経 過

### 1. 開 会

- ・ 事 務 局：ただいまから第2回守谷市総合計画審議会を開会いたします。

### 2. 新委員紹介

【資料 No.1 により、事務局紹介】

### 3. 会長あいさつ

- ・ 事 務 局：続きまして、腰塚会長よりご挨拶をお願いいたします。
- ・ 腰塚会長：昨年10月、皆さんにお集まりいただき、この審議会がどういう役割かというお話をしたと思います。この会は守谷市の将来にわたることを議論する会です。総合計画は、この10年、守谷にとって何が一番大事か皆さんのご意見をいただき、実質いいものになったらいいと思っています。よろしくお願いいたします。

### 3 市長あいさつ

- ・ 事 務 局：ありがとうございました。次に、松丸市長よりご挨拶をお願いいたします。
- ・ 松丸市長：コロナ禍での会議で、ご参集いただき感謝申し上げます。10年先を見据えた総合計画であれば、どんな社会が待っているかは、若い世代の方が想像がつくと思っておりますし、市民の皆さんが見て楽しくなるような、未来を見せてくる総合計画を作るべきだろうと、進めさせていただいております。皆さんの忌憚のないご意見をお伺いした中で、ともに未来づくりをしていければと思いますのでよろしくお願いいたします。
- ・ 事 務 局：続きまして次の協議事項に入る前に、本日お配りしている資料について確認させていただきます。不足はございませんでしょうか。
- ・ 事 務 局：今後の議事進行は、守谷市総合計画審議会条例第5条第3項の規定により、腰塚会長をお願いいたします。なお、前回の第1回審議会におきまして、守谷市総合計画審議会会議録を作成、公表するにあたって、発言者を記載する合意をいただきましたが、本日もこの点についてご確認をお願いいたします。では会長よろしくお願いいたします。
- ・ 腰塚会長：前回も、発言でお名前を記載することでご了承いただいておりますが、今回もよろしいですか。
- ・ 委員：(了解の発言あり。)
- ・ 腰塚会長：次回以降も断りなければそういう方針でやらさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 5. 協議事項

- ・腰塚会長：それでは協議事項に入ります。第三次守谷市総合計画基本構想（案）についてです。説明等よろしくお願いします。

### (1) 第三次守谷市総合計画基本構想（案）について

#### 【資料 No.2・No.3 により、事務局説明】

- ・腰塚会長：SDGs とは、国連でこういう目標を掲げているんです。かなり目標が多く、例えば日本だと綺麗な水は手に入るけど、世界的に見たらそれがすごく大事だったり、貧困が日本で言っているような貧困じゃないとか、いろんな項目について、世界的に克服していこうと決めたものです。サステナブル・ディベロップメント・GOALS（ゴールズ）の小さいsは複数のsです。もしこれが出るんだったら市民の方に、アピールしたほうがいいです。
- ・事務局：わかりました。
- ・事務局：今日配付した資料、議会の総合計画検討特別委員会の提案内容について説明させていただきます。

#### 【当日配付資料により、事務局説明】

- ・鈴木委員：資料2の計画策定の背景で、守谷市民のアンケート調査の7割が「住みよい」と言っている。高いことはわかっているけれども、こんなに果たして高いのか。それと一つの指標だけが伸びていて、他の指標はかなり低い。これで、「住みよい」と言えるのか。綿密なアンケート調査をやっているもので、それに近いでしょうけれども、これだけでは物足りない。
- ・腰塚会長：アンケートについては、実は、今日皆さんに配布する資料に大量なのが入っていたんです。事務局は1週間前に送ろうとしたんだけど、とても目を通す時間はないだろう、半分にしていいという私の判断でした。いくつかのアンケート調査のボリュームのある結果があります。
- ・河合委員：このアンケートをここに載せるということは、この「住みよい」ということ、問題はないということを前提に計画が作られている印象を受けるんです。そもそも守谷市に何が足りないのかというのが、アンケート調査結果で出ていると思うので、こういう少数意見も出ているというものも載せて欲しいと思います。
- ・腰塚会長：例えば、7割でこれを維持しなきゃいけないと考える、というのもあると思うので、必ずしもこれですべて問題がないという資料だと私は見えなかったですけど、それはいろんな受けとめ方があると思います。そこに関しては事務局、お答えがあるなら答えてください。

#### 【『第三次守谷市総合計画』に関わる市民アンケート 調査結果を投影し、事務局説明】

- ・腰塚会長：ここに出ているように、7割がいいと言っているからと安心している訳ではないということだけは、答えていただいたと思います。それから、複数回答ですので、相対的にどうかということだろうと思います。そういうことを受けた上で、どういう目標を立てるか、どういう施策に重点を置くかは大事かと思います。
- ・伊藤委員：そのアンケートは、全市民に開示、公開はされるのでしょうか。
- ・事務局：巻末資料としてアンケート結果は載せたいと思っております。個別の意見も載せられる範囲で載せていきたい。最終的にはこの計画冊子としてオープンになります。
- ・腰塚会長：ホームページに載るというものではない？
- ・事務局：第二次守谷市総合計画の場合ですと、附属資料で、アンケート結果は公表しておりますので、今回も同様に出すつもりです。
- ・杉本委員：第二次の総合計画を検証して、第三次総合計画を作ったのでしょうか。
- ・腰塚会長：検証というより、これは目標にしたけどまだ実現されてないとか、そういうチェックの上でやっていますかという話だと思います。
- ・杉本委員：はい。
- ・事務局：内部検証ということで、各課ヒアリング等も行っております。また、評価基準、KPIがある中で、市民アンケート調査も踏まえ検証しています。それらを踏まえて、基本構想という未来を語るという形で出している現状で、細かい事業的なのは今後、基本計画を作りこみしていく中で詰めていきたいと考えています。
- ・腰塚会長：計画立ててやったけど、まだこれは実現しないとか、半分しかできなかったとか、それはやられているかという話です。
- ・事務局：評価の公表は、ホームページ等でもしており、令和元年度までについては、数字的な達成度で出しております。それは毎年行った上で、内部的な達成度も踏まえて、検討している現状です。
- ・鈴木委員：10月の資料には、若年層の将来のまちのアンケートが、12月から3月までになっている。これは、行ったんですか。
- ・事務局：「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、重点プロジェクトに繋がるアンケートということでやっております。内容についても、出す用意はあります。
- ・腰塚会長：総合計画にどういうものが反映されているか、個々の施策等になった時に、こういうのを踏まえて出しますという話をさせていただくとありがたい。回答率を見ると高校生だから、多いです。回答が9割という例はあまりないです。

**【まち・ひと・しごと創生総合戦略】 将来のまち高校生アンケート  
調査結果を投影し、事務局説明】**

- ・腰塚会長：一応の結果がありまして、披露していただきました。
- ・河合委員：総合計画を、アンケートの意見も反映していますという作り方をされるのであれば、3ページの下、「住みよいという回答が7割あります」の掲載はいいことと思いますし、その下に、先ほどのマトリックスとか、こうして欲しいとか、重要度が高いというものを載せていただいて、皆さんのアンケートもこの総合計画に

反映していますという形の方が、受け入れやすいと思います。もしくは、アンケート結果すべては計画に反映させないという方針であれば、アンケート結果自体をすべて削除するのもあると思います。

- ・腰塚会長：それは当然生かすということが前提だと思います。
- ・河合委員：であれば、先ほどのマトリックスの上の方の意見、重要度が高いというのが、「住みよいと回答しています」の下に、住みよい理由よりも、こうして欲しいというものを入れた方がいいと思います。
- ・腰塚会長：事務局もいろんなことから汲み取ろうとしていると思います。それもあるんですが、委員の皆さんは、個人的な体験とか、これまで生活されてきたことの中でこうだということを、是非おっしゃっていただきたい。
- ・佐藤委員：総合戦略の一つでもありますコンパクトシティの考え方は、市政と高齢者のメリットは大変高いように思うんですが、子育て世帯としては、そこまで感じられないと感じました。なぜなら広々とした土地で安全に子育てができることが守谷の魅力の一つであると思っているからです。

守谷は地元ではないですが、守谷の子育てのしやすさや、教育水準の高さ、住んでいる人たちの人のよさ、都心へのアクセスのよさもありまして、ずっと守谷に住みたいと思い現在守谷市内に一軒家を建設中の私から見ますと、まず土地を探すのが大変でした。都内へ出勤する人でも一軒家が持ちやすいのは守谷の大きな魅力の一つですので、守谷以外の人でも一軒家を探しやすい仕組みがあると、守谷に家を購入する世帯はさらに増えるのではないのでしょうか。

家での快適性などの住みやすさとか、広い公園もたくさんあることを考えると、利便性はもちろん、子育て世帯には、土地の価格や生活の快適性などもとても重要なので、コンパクトシティが進んでいっちらうと、駅前だけに人口が集中してしまうのかなという心配は若干あります。

そしてせっかく子育て世帯が増えても、高校や大学そして就職を考えたときに、つくばエクスプレスでしか公共交通機関で都心へ出られないようですと、限界がある気がします。もう少し広い範囲で、都内への交通アクセスがより便利な方が引っ越さずに守谷から学校や職場に通おうと思う人も増えるはずです。東京駅への直通高速バスの運行は終了しましたが、特に需要が高いであろう、例えば夕方以降の便を中心に試験的に運行なども、検討していただけたらというのは、都内に通う人からは聞く意見です。特にこのコロナ禍において極力不特定多数の人との接触を避けたいという観点からも、都内直通のバスの運行の需要の高まりを考えると、谷和原インターも近いですから、住民のメリットをお考えいただければ幸いです。都市へのアクセスのよさを、さらに守谷以外にもアピールしていけば、若い世代の人口増加に繋がっていくと思います。

そして、売りに出していない土地や、空き家になっていくであろう土地に、子育て世帯が家を建てやすい仕組みをご検討いただきまして、守谷に住みやすいまちづくりをしていただければと思います。

- ・腰塚会長：外から来た人の意見が一番大事だと最初に申しあげましたけど、そういう中の一

つだと思います。土地を買って自由な家を建てたいのに障害があるのはやっぱりまずいです。最初の目標にあった「若い世代がここを選ぶ」、教育と子育ては非常に大事な一つの視点で、具体的な案が出てきた時、ここで議論したほうが良いと思います。

ただ、コンパクトシティは、誤解があると思います。いろんな地域にあるコンパクトシティの考え方は違いますから、守谷でも都市に全部が住んで、全部そこで用事を足すというふうにするとは思わないで良いと思います。そういう言葉が独り歩きしています。

- ・新田（友）委員：「誰一人取り残さない社会の実現」という資料6ページのSDGsの推進、5ページの絵を見ていると、元気な人しか対象になってないのかって思って、お子さんの未来とか、質の高い教育とか子育てとか。多彩なケアで元気なシニアが活躍してくるといえるときに、障害を持っている人、元気じゃないシニアの方、身体障害を持っている方が住みやすいまちづくりも組み込んでいただけないかと思うながら、この絵でも福祉系のことは何一つ出てない感じがしながら、読んでいました。
- ・腰塚会長：それは事務局にも頭に置いておいて欲しいですが、具体的に言うと、どういうところを、とってらっしゃいますか。
- ・新田（友）委員：元気なお年寄りばかりじゃないと思うんです。守谷でも高齢者の方も増えてきていますし、精神障害、身体障害の方に対しても、守谷は支援しているというところがあると、いろんな人が、守られていると思うと思います。
- ・腰塚会長：若い人が外から来ているので、率にすると多いですけど、昔からの部分は全く日本が抱えている高齢化社会と同じですから、そういう福祉のケアもしておかないといけません。その上で、守谷のこの場所を生かした、将来をどう考えるかってことなので、足りないようだったら、事務局にぜひお寄せいただければと思います。
- ・須賀委員：守谷のいいところは、子育て世代にやさしいまち、そしてもう一つは、シニアの方が暮らしやすいまちということで、市を運営されてらっしゃることはよくわかります。  
今回高校生のアンケートで、守谷高校に限定したアンケートをとられたのはどうしてかをお聞きしたいと思いました。守谷高校ですと、進学就職、いろんな考えの方もいらっしゃるんで、平均的なアンケート結果が得られないんじゃないか、偏りもあるんじゃないかと思いましたので、そのあたり聞いてみたい。  
先ほど、市内で割と事が済んでいると仰ってたんですが、コロナ禍で実施しているところが何か影響がないのか気になりましたので、そういうところを含めて、守谷市として、「U・I・J ターンを創る」で具体的にどんなところをお考えなのか、現時点でお分かりになることがあれば教えていただきたい。
- ・事務局：通常のアンケートでも18歳以下で出したことはあるが、回収がほとんどない状況で、ある程度回収できる守谷高校でアンケートをとらせていただいた現状です。確かにコロナ禍という状況ですので、何とも言えないところではあります。

ただ、全体的なものとして、ここで住んで、ここで就職して、ここから通いたいという意見もある程度あった中で、そういう傾向かなと捉えています。

「U・I・J ターン」の部分ですが、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、総合計画の基本構想を踏まえ、新たな計画を立てる予定です。その中で、アンケートを踏まえ、今後検討した中で、ご提示できればと思っております。

・腰塚会長：U・I・J ターンはこういう事をやったら上手くいくかも知れないという提案してもらった方がいいですね。事務局にも考えていただきたいし、非常に大きな、大事な問題だと思います。

・鈴木委員：環境問題は、視点が二つあるんです。一つは生活環境、もう一つは自然環境。生活環境については、いろんな手を打って、それなりに時代に合った体制になってきているが、一方自然環境は、発展すればするほど無くなっていく。10 年先、自然がどれだけ守られて、どれだけ破壊されていくのか。守谷が自然豊かなまちと言えるのか、非常に危惧しているんです。アンケートでは、守谷の緑は非常に大切だと言われていまして、これから先にどういう形で何を残していくのかは、これからの議論の中で、アイデアは出していきたいと思っております。

・松丸市長：第一次の総合計画を作る時のアンケートも、守谷の緑、守谷の自然が魅力だということが非常に上位にきています。

自然は一度破壊してしまうと、再生は本当に難しいと思っておりますので、できる限り、あらゆる手段を通じて、緑を守らないといけないということでもありますし、緑を守るため、維持していくためには、コストもかかることから、グリーントラスト的なもの、クラウドファンディングで、残すべき緑を行政が管理して、市民と一緒に残していく術を作っていくことが、非常に大切だと思っておりますし、財源の確保を含めて、策を練っています。

守谷市民の大多数は緑を残そうという思いに関して、一致していただけていると思いますので、その辺も踏まえて、対応策を、この後の基本計画に盛り込んでいきたいと思っております。

・伊藤委員：横浜から来た時に、何もなくてノイローゼの状態でしたけども、来た時のことを考えると、本当に発展を遂げたと思うんです。町内会が対策として、学生さんをシェア生活で取り入れたり、高齢化が高い地域で、皆さんは買い物が一番大変だと仰って、移動販売が始まって対策がされているなって思っております。デマンドタクシーは好評で、足りないぐらい需要が高いそうです。いろんなことを考えてくださって、守谷の発展があるように思うんです。

価格が下がっているので、空き家対策に力を入れて、若い世代を呼び込んでいただくところを考えていただくとか、鳥の道は、緑もいっぱいあるし、アクセスもすごくいいですし、もうちょっとアピールしてもよろしいんじゃないかって思うんです。

・腰塚会長：デマンドバスですけど、もうちょっと高度に、進んだ形でやろうというのは、全国の地域でやっている最中です。守谷も多分、このあと出てくると思います。た

だタクシーを呼ぶんじゃない、スマホを見ただけで、今バスがどこを走っていて、どこで手を挙げれば、そのバスが来てくれるかっていうソフト絡みでバス会社と提携して何かやろうとか、そんな動きがあちこちで出ています。

それから、戸建の住宅ができたのは、守谷が発展した一つの原動力になったんです。それが一様に、高齢化してというのは、大きな団地がみんな直面していて、大きな課題の一つです。

- ・貝塚委員：このコロナ禍で、皆さんテレワークやら何やらという状況になって、都内に30分で行けることがどれだけの魅力なのか、疑問視されてくる可能性が高いと思います。そうすると、もう一つの見方としては都内で高いところに住んでらっしゃる方が、もうちょっと安いところ行こうかという考えになった時にそういう方を受入れる、空き家対策で何かやったら、都内から人が流入してきていただけるんじゃないかなと思います。

市街化調整区域でも建てることのできる。市内の4分の3が市街化調整区域で、計画性を持って調整していくような形ができるのであれば、長い目で、守谷市の発展に繋がると思うので、そこも含めた検討も必要かなと考えております。

- ・腰塚会長：私は都市計画審議会の会長もしているので、そっちでも承っておく話だと思います。

- ・河合委員：この基本構想が、若い人向けに作られているように見えます。4ページには、若い世代に住みたいまちとして選ばれ続ける魅力づくりが1番目に挙がっていますが、高齢者、障害者の話は出てきません。5ページに至りましたら、「わたしは子供たちの未来に約束します」というテーマが入っています。子育て世代ということもあると思いますけれども、高齢者、障害者の方への吹き出しを、もうちょっと魅力あるやつを作って欲しいと思っています。ここの、「わたしは子供たちの未来に約束します」について、個人的な意見としては、守谷駅に挙げている「守谷市は未来におせっかい」はここに当てはまるのかなと。であれば、子供たち、子育て世代だけじゃなく、高齢者、障害者の視点を入れて欲しいのが1点です。

2点目は6ページにSDGs、1番2番6番14番が抜けたやつが入っています。地方自治体としては、SDGsは17項目すべてを掲げないと。一番は貧困化です。まさに、世界的に見れば、守谷には貧困の問題はないという話はあるかもしれませんが、生活保護世帯の方が見れば、「何で1番が抜けているんだ、我々は守谷市から見捨てられているのか」という見方もされる。海に関しても、利根川を介した下水の関係もあるので、ここには17項目挙げた方がいいと思います。

3点目、財政ですが、今までは基本的に問題はなかったということで推移してきたんですけど、住民税で一番稼いでくださる世帯は、高齢化になると住民税が減っていく。それでも、若い人たちを呼び込むということであれば、先ほどの市街化調整区域を含め守谷市の人口を増やしていくことで住民税で頑張るのか、企業誘致をした固定資産税で頑張るのか、それとも、大多数の市町村のように助成金に頼るのか。きっと構想としてはお持ちかなと。今までの話からすると、

若い世代を呼び込みたいという話は出ているので、住民税で頑張っていきたいのであれば、そこは土地活用も含め、どうするのか、もうちょっと明確にしてもいいのかなと思っています。

・腰塚会長：財政問題、市長さんどうなんですか。

・松丸市長：財政力指数という指標があります。1を境に、1以上になればその自治体の財政は自立しているという状況を行ったり来たりしているのが、守谷の今の財政状況です。財政力指数1以上が必ずしも豊かであるとは思いませんが、一つの指標として財政力指数があります。交付税をもらわないからと胸を張ることはできますが、その分、やせ我慢をしないとイケないような状況のこともありますので、指標に依存するより、現実、今どれだけのお金があってどれだけ使えるかという、キャッシュフロー的な判断が現実だろうと思っていて、このところふるさと納税という財源確保の手法で、去年度は25億までいただきました。引き続き、その財源は確保していきたい。

人口が、いずれ守谷も減っていく。いろんな若い世代を呼び込む施策をしながらも、いずれ日本の人口は4分の3になっていくその波の影響がくるということから、他の財源をどう確保していくかは、住民税から法人税でということ今、新守谷駅周辺の開発をしていく、また守谷サービスエリア周辺の農地も転用して固定資産税が上がる用途に変更させていただくという事業も展開していますので、個人住民税の減収を補填する財源確保は必ずしていけないといけない、今取りかかっているところです。

・松本委員：以前、守谷市は住みよさ1位になったことがあったけど、それを基本にして、1位を目指すという構想のもと、これから守谷市が発展することをやっていただきたいと思っています。

・事務局：指標のとり方も変わり、かつて1位に比べれば50位前後という現状です。年によって指標の考え方も変わり、上位もかなり変わってきています。利便性、安全性の指標化も変わったところがあり、今の守谷市で、その指標に合わせた施策を取っていくのが、果たして住んでいる方にとっていいものかと考えるところがありますので、その指標だけに基づいた政策は考えていません。住んでいる方が本当に住んでよかったという守谷を目指したいと考えています。

・腰塚会長：5位か10位にとらわれなくても、ずっと上位だったその良さは何かを考えた上で、それがなくならないようにするのは大事なことで、それは今日お話があった緑だったり、子育てだったりするわけですけど、これは、ぜひ、外から来た方、来てどうだったという話をヒアリングして、集約するという形でもっていったらいいと思います。

・鳴澤委員：サステナブル・ディベロップメント・ゴールズを、最初にいきなり出すのではなく、わかりやすく説明いただいた方が、浸透が早いと思いました。

重点プロジェクトで、守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略が一番のテーマになって、仕事ということ考えたとき、テレワークの推進とかを考えると、守谷で働く、家でも働けるということをどう広げていけるのか。働きやすい、住みや

すい、行きやすいということ、もうちょっと書いてもいいと思います。

あとは、東京のアクセスを結構強調しているんですが、私守谷に住んでいていいなと思うのは、千葉でも、埼玉でも、東京でも、県内の例えばつくばというところも結構簡単に行ける。そういうアクセシビリティが高いのが、守谷のいいところだと思いますので、東京にこだわらなくてもいいかもしれないと思っております。

- ・腰塚会長：東京都心だけじゃなくというのは、多分これからもそうで、意外と便利なんですね。それは大事だと思います。
- ・事務局：その点で言いますと、(資料 No.2、3 ページの) 地図、通常東京を中心に作るんです、どこの市町村でも。ここを守谷市中心の絵を書いたのは、普段と違う形です。ここの作り込みも、イメージ的にわかりやすく出せばいいと思っています。
- ・腰塚会長：東京駅でもいいけど、駅と他のところも入れると、よりわかりやすくなる。高速道路と鉄道は入れた方がいい。この図を大きくしてもいい。
- ・伊藤委員：ワクチンが始まる予定ですけども、電話とネットですということ、電話が殺到して、なかなか通じないと思うので、ネットができない高齢者に対して、お助け隊みたいな受付ができればいいと思います。
- ・松丸市長：守谷でも設置しております、保健センター二階で、高齢者が対面でやることで安心して受けられる。そこよりも早くやっております。  
ついでに、今週の月曜日から 74 歳の方から順次、郵送させていただきました。前は 75 歳以上の方を 1 度に送ったものですから電話の予約がパンクしたので、今回は、1 日 1,000 件程度ずつ郵送して、昨日今日とパニック状態になるような混み方はないと報告を受けております。これを続けて若い人になっていけば、スマホ等で予約も可能になってきます。
- ・腰塚会長：今の点は、この将来構想の中のデジタル技術活用の推進も関係しますね。一方で、スマホが高齢者は無理というのはありまして、その辺が、デジタル社会を迎える課題のような気がします。

## 6. その他

### (1) 今後のスケジュール等について

- ・腰塚会長：次の議題に入って、今後のスケジュール等について、お願いします。

#### 【参考資料 No.1 により、事務局説明】

- ・腰塚会長：9 月ごろの予定でお集まりいただく。もう少し具体的な話とか、煮詰まった話等が出てくると思うので、また皆様のご意見をいただきたいと思っています。

## 7. 閉会

- ・腰塚会長：今日は、いろんな意見を出していただきました。今後ともよろしく願いしまして、今日の審議会を終わります。